

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】 第 7 部門第 3 区分
 【発行日】 平成 17 年 7 月 21 日 (2005.7.21)

【公開番号】 特開 2003-324606 (P2003-324606A)
 【公開日】 平成 15 年 11 月 14 日 (2003.11.14)
 【出願番号】 特願 2002-131904 (P2002-131904)
 【国際特許分類第 7 版】

H 0 4 N 1/405
 B 4 1 J 2/52
 G 0 6 F 3/12
 G 0 6 T 5/00

【F I】

H 0 4 N 1/40 C
 G 0 6 F 3/12 C
 G 0 6 T 5/00 2 0 0 A
 B 4 1 J 3/00 A

【手続補正書】
 【提出日】 平成 16 年 11 月 26 日 (2004.11.26)
 【手続補正 1】

【補正対象書類名】 明細書
 【補正対象項目名】 特許請求の範囲
 【補正方法】 変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

ベイヤー型ディザマトリクスを用いた画像の量子化処理方法において、
 閾値配列を組み換えた複数の 2×2 の最小パターンに基づいて、ラスタ方向に所定周期の繰り返しパターンが出力されるように、前記ベイヤー型ディザマトリクスの閾値配列を組み換えたディザマトリクスを作成する作成工程と、
該ディザマトリクスを使用して、多値のディザ処理を行う量子化処理工程と
を備えたことを特徴とする量子化処理方法。

【請求項 2】

前記最小パターンは、閾値配列を時計周りまたは半時計周りにローテーションさせて組み換えたことを特徴とする請求項 1 に記載の量子化処理方法。

【請求項 3】

前記最小パターンは、閾値配列を上下および左右に入れ替えて組み換えたことを特徴とする請求項 1 に記載の量子化処理方法。

【請求項 4】

前記最小パターンは、閾値配列をランダムに入れ替えて組み換えたことを特徴とする請求項 1 に記載の量子化処理方法。

【請求項 5】

ベイヤー型ディザマトリクスを用いた画像の量子化処理装置において、
 閾値配列を組み換えた複数の 2×2 の最小パターンに基づいて、ラスタ方向に所定周期の繰り返しパターンが出力されるように、前記ベイヤー型ディザマトリクスの閾値配列を組み換えたディザマトリクスを格納する手段と、
 該ディザマトリクスを使用して、多値のディザ処理を行う手段と
 を備えたことを特徴とする量子化処理装置。

【請求項 6】

前記最小パターンは、閾値配列を時計周りまたは半時計周りにローテーションさせて組み換えたことを特徴とする請求項 5 に記載の量子化処理装置。

【請求項 7】

前記最小パターンは、閾値配列を上下および左右に入れ替えて組み換えたことを特徴とする請求項 5 に記載の量子化処理装置。

【請求項 8】

前記最小パターンは、閾値配列をランダムに入れ替えて組み換えたことを特徴とする請求項 5 に記載の量子化処理装置。

【請求項 9】

コンピュータに、請求項 5 ないし 8 のいずれかに記載の量子化処理装置として機能させるための量子化処理プログラム。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

【課題を解決するための手段】

本発明は、このような目的を達成するために、請求項 1 に記載の発明は、ベイヤー型ディザマトリクスを用いた画像の量子化処理方法において、閾値配列を組み換えた複数の 2×2 の最小パターンに基づいて、ラスタ方向に所定期の繰り返しパターンが出力されるように、前記ベイヤー型ディザマトリクスの閾値配列を組み換えたディザマトリクスを作成する作成工程と、該ディザマトリクスを使用して、多値のディザ処理を行う量子化処理工程とを備えたことを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

請求項 6 に記載の発明は、請求項 5 に記載の前記最小パターンは、閾値配列を時計周りまたは半時計周りにローテーションさせて組み換えたことを特徴とする。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

請求項 7 に記載の発明は、請求項 5 に記載の前記最小パターンは、閾値配列を上下および左右に入れ替えて組み換えたことを特徴とする。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0019】

請求項 8 に記載の発明は、請求項 5 に記載の前記最小パターンは、閾値配列をランダムに入れ替えて組み換えたことを特徴とする。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

請求項 9 に記載の発明は、コンピュータに、請求項 1 ないし 4 のいずれかに記載の量子化処理装置として機能させるための量子化処理プログラムであることを特徴とする。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0022

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0023

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 12】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0024

【補正方法】削除

【補正の内容】